



刊行月三回七、十七、二十七
定價 一月部 二十錢
一月部 五十錢
廣告料 一行五十
發行所 常磐海岸新報社
印刷所 常磐海岸新報社

無腦町議頼むに足らずと

「愈々青年有志の蹶起」

築港期成同盟會組織さる

正に漁港修築は疲弊困憊に苦む四倉町の急務

逐年の漁業不振に依る四倉烈なる築港運動巻き起り耶無腦町議頼むに足らずと運町の疲弊困憊其の極に達しなれば亦々先取されるれ馳せ乍ら四倉築港期成同盟の急を要する事に就いては筆者の特に力説したる事屢々なるも、漁業家は青息吐息のび縫策にのみ拘泥して漁業百年の長計を樹つるに疎く、又出縣運動に當つてある町會議員は所謂天狗極めの屁理窟を並列し極要の地位を俾張り散しのみで耳にタコよる程陳情にムセ返つてゐる縣當局者の憎惡を寧ろにどめ過去數年に渡る築港運動に殘るものは之れ等材木出し的町議大勢揃への出縣運動に費す町民の負擔に過ぎなかつた。

◎社告

四倉築港期成同盟會に對する激勵と町會議員に對する鞭撻の意味で愛町の有志からの投書山積して居る紙面の都合上次號掲載御参考に供し度いなく形式的、傳統的運動を全町を風靡して茲に青年繼續して居る事に愈々躍氣の蹶起を見るに至つた。

各濱鯉船出漁準備なるも

鯉漁期遅れるらしい

而し不漁年とはさまらぬ

山本水産 技手談
投機的漁業家一ヶ年の運命鯉漁期の夏職にある警城各濱の地勢を占めてゐる乍ら小名濱、江名濱に機先を制され面目丸潰れの折柄、今又を決定するのは春、夏、秋の濱船體の擴大に從前と異り豊間村、相馬郡原釜等に猛三職を通じて何と云つても南は伊豆方面より北は北海

クスリは 山野邊 明治堂

道に至る遠洋漁業に依つて一艘平均一万五千圓以上の漁獲高がなければならぬ現狀にあると云ふから漁期を控えて船主、船長の苦心の程も窺はれる、今や出船

我社外十一社聯名

財界安定促進會成る

磐銀休業に依る石城財界動搖の折柄本日警城經濟新報社に十二社會合平銀行監査役吉田禮次郎氏の時節柄極めて不穩當なる聲明書に對し左の如き聲明書を發することに協議した。

聲明書

古き歴史を有し金融界に雄飛した磐城銀行が、突如休業を發表し財界に異狀の危懼と不安をもちたらしめた事は吾人の遺憾とする所である。事斯に至つて、われら同業者は政黨政派を離れ感情を離れ日夜焦慮奔走、財界安定の爲めに一臂の力を注ぎつゝあつたのである。然るに平銀行監査役吉田禮次郎君は不安一掃の美名の下に去る五月廿四日附を以て發表したる聲明書なるものは獨り平銀行の取引關係者の不安を緩和する事に汲々として、反動的に他銀行の取引者は勿論一般人には

準備も整ひ漁業視察に向つてゐる警城丸の情報を待ち構えてゐるが今のところ余り好ましくない情報に各濱右に就いて小名濱水産試験場の山本技手は語る
警城丸は十七日勝浦方面から伊豆沖に向けて出發したが同船最近の百海里横斷観測では七十海里で七度乃至八度の表面水温で八十海里に至り十一度内外百海里で十三度半で
は廿度から廿三度位を適温とする魁の來遊は急に海洋の好變でもない限り例年より餘程遅れよう云はれてゐる、當分二百五十海里以上の伊豆迄行かねば見られぬ底温は寒流帯が非常にび漫してゐるから漁夫達は打瀬船の揚網にておひる程冷たさ記してあるが、前項に於て平銀行は補償令により一其に、平銀行に對しては輕微の融資を受けぬ融資を受舉旨動を慎み他の銀行と協けた銀行は不良銀行なりと暗に諷刺したるが如く、聲すべく猛省一番せられん事を冀望するものである。
右聲明す
昭和三三年五月廿七日
財界安定促進會
(イロハ順)
警城調査新報社
警城立憲新報社
警城經濟新報社
警城之實業社
警城商工時報社
警城新報社
警城の時事社
警城公論社
警城民政新聞社
東北實業新聞社
福總新聞社
常磐海岸新報社

良品廉賣に勝る商略なし

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店

電話九番 一三九番

確實敏捷は釜屋の生命なり